

<p>全体について</p>	<p>配偶者に対する配慮も入れたほうがいい。(家庭内の受動喫煙) 子どもの受動喫煙が家庭でもという話もあった。市民に含まれるが「保護者」がどう子どもを守るかを強調したほうがいい。 喫煙者も非喫煙者も協力する、ともに考えて行動するという内容を入れたほうがいい。 イメージだが、共生社会の実現を目指すということだと思う。権利とかではないし、たばこに限らない。イメージやコンセプトを明確にし強調したほうがよい。 簡潔に市民に周知することが必要で、細かな条件は不要。 推進するためには、概念だけではなく具体的な行動につなぐ必要がある。具体的な主体が前文にあり、続けて主語が「私たち」なのでわかりやすく、この形にあまり違和感はない。共生というのは基本の考え方なので、具体的な表現があったほうがいい。 シンプルがいい。宣言が出たら、職能で精いっぱいやる。誤解されるような言葉は使わず、シンプルできれいな表現とし、行動する側が一生懸命やればよいと思う。 全体的に宣言するには、子どもからお年寄りまでわかるような、シンプルなものがいい。前文からだんだん細かくなっていくような構造はどうか。 例えば市民憲章はよく考えられていると思う。広い意味でいろいろな階層の人がじっくり入ってくるような形を再検討してほしい。 関係団体というと、関係ない団体は入らないことになる。町内会なども含むなら、諸団体といった別の表現を。 関係団体では広すぎる。事業者に匹敵するものならば、施設の管理者など具体的な感じで書いた方がいいのでは。 事業者とかではなく、市民が最も強調すべき言葉ではないか。 どの人も市民としてだけでなく、その中で事業者であるときの対応、保護者であるときの対応、喫煙者としての立場などもある。むしろ初めから「札幌市民は」として、立場を変えていくというやり方もあるかもしれない。 受動喫煙は、紙巻たばこだけでなく加熱式たばこでも生じることがわかるような表現を。 喫煙できる環境をなくしてしまうことは問題があるだろう。 歩きたばこを含め、喫煙者のマナーやルールについて。事業所や飲食店のように、ルールの中で喫煙できるような環境があってもいいのでは。 街なかで喫煙できる場所を確保する必要もあるだろう。宣言の取組に明記はできないと思うが、まちづくりの視点から今後考えていくことの一つになるのでは。 来札者に広めていく上でも、日本語以外の多言語表記もあったほうがいい。(英語、仏語など)</p>
<p>前文について</p>	<p>(前文について)主語が始まるのがいい。 (前文について)受動喫煙という言葉は1回でいい。 前文を読んだだけで札幌とわかる言葉がほしい。(時計台の鐘が鳴るのような) (前文について)語順を「札幌市は受動喫煙のないまちを目指し、以下の方針に基づき札幌市民、事業者・・・と連携協力し行動することを宣言します」としたほうがいい。 (前文について)「ため」の繰り返しはせず、「未来を守り」の方がいい。 (前文について)札幌市民に全員が含まれる。「札幌市民は」だけで、札幌市も事業者も関係団体も含まれるのではないか。 前文も「全ての人の健康を守る」ということでもいいのでは。 前文の文頭の文字が言葉としてつながると面白い。「きれいなくうき」とか。</p>
<p>方針について</p>	<p>方針3で労働者だけを取り上げるのはどうか。配偶者や家族なども入れたほうがいい。 方針3の主語は「事業者は」とし、健康を守るではなく「受動喫煙をなくす」まで書いた方がいい。 方針1を私たちはではなく、「札幌市民は」としたほうが全員が対象になる。 方針3も私たちはではなく、「事業者は労働者を守る」とする。 方針5も私たちはではなく、「喫煙者は禁煙したい人を」とする。 (方針について)語尾は「守ります」で文体を統一するとい。 (方針について)声を合わせてみんな同じ考えで宣言するという意味で、それぞれの立場があるが全体一致して同じ方向で進むという意味では「私たちは」はいいと思う。 (方針について)わかりやすいのがすごく大事だと思う。方針2の「胎児を含む」や方針3の「労働者」はわかりやすい。 (方針について)山形の宣言のように、「誰もがきれいな空気で快適に過ごせるよう受動喫煙をなくします」とするのがわかりやすい。「誰もが」に来札者も市民も含まれる。 (方針4について)外から来た人にだけきれいな空気でもてなすと書くのは疑問。みんなきれいな空気が必要。ここだけでもてなすだけではなく、他と同様に「守り、～します」という表記がいいのでは。 方針2だけ「20歳未満」という細かい数字の条件が出ているのが違和感。未成年では今後扱いも変わるかもしれないが、数ではない別の表現があれば。 (方針について)札幌というまちのことなので、方針4はもっと上にきてもいいのではないか。</p>
<p>取組について</p>	<p>啓発資材が非常に重要。行政で市民向け、飲食店向けなどの資材を作成したら協力して普及啓発できる。 学校教育も重要。子どもが喫煙しないことだけでなく、喫煙する保護者に禁煙を促すような効果もある。小6だけでなくもっと早くからでもいいのでは。 3次喫煙の害についてを周知し、認識を共有する必要がある。 加熱式たばこは今後新しい情報がでてくるのできちんとわかりやすく周知していく取組も重要 子どももとても大事だが、家庭や家族の受動喫煙を減らし守っていく、そういうフレーズがあってもいいのではないか。 公園は子どもがたくさんいる場なので、取組の中にあってもいい。 家庭内ということで子どもや配偶者、パートナーを守るという表現もいいのでは。 公園などでイベントを行う際には分煙をするよう指導し、喫煙できる環境もつくりながら推進する必要があるだろう。 店の喫煙可や禁煙の表示もあるが、広告宣伝においても喫煙だけでなく禁煙についても周知したほうがいい。それは文章ではなく共通のマークを用いるとよい。(喫煙できる場所もできないところも、宣伝広告するときは明記します) 禁煙外来の受診勧奨という言葉はきついのではないか。喫煙者が禁煙しなければならないというメッセージにならないよう配慮してほしい。 禁煙支援に取り組むけんぽ(保険者)を増やす。</p>